



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 201
December
2009

トピックス

関係機関との防災協力推進

「南アジアにおける地震防災対策計画（ERRP）」引き倒し実験の実施

メンバー国との防災協力推進

防災政策ピアレビュー・パイロット事業の実施

Asian Disaster Reduction Center
アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 ひと未来館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

●関係機関との防災協力推進

「南アジアにおける地震防災対策計画（ERRP）」引き倒し実験の実施

アジア防災センター（ADRC）では、「南アジアにおける地震防災対策計画（ERRP）」事業のメインイベントとして、既存建造物の耐震補強の有効性を検証するために「引き倒し実験」を実施しました。

2009年10月15日、ネパールのカトマンズにおいて、その第一回実験を行い、補強していない築40年の建物を倒れるまで引っ張りました。この実験は、ネパールで大半を占める既存の組積造の住宅が地震の際にどのように壊れるかを実際に見てもらうことで地震被害の恐ろしさを知ってもらうと共に、古い住宅がどの程度の強度を持っているかを調べることが目的でした。



【第一回の実験：耐震補強をしていない建物】

第一回の実験では、政府関係者、国連関係者、ERRPメンバー国からの参加者、そして大勢の地元の住民も関心をもって見守る中、慎重に引っ張り力を大きくし、住宅の壁にクラックが発生し、それがどんどん大きくなり、ついには住宅が一瞬にして崩壊する光景を目の当たりにし、参加者全員が地震災害の怖さを実感しました。翌日の現地新聞にも大きく取り上げられ、防災啓発の目的も十分に果たしました。

また第一回の実験に引き続き、2009年11月2日～3日に「耐震補強を施した既存建物の引き倒し実験」を行いました。この第二回実験では、同じ住宅を、JACKETTING工法で補強し、どのくらい強くなるかを検証することを目的に実験を行いました。前回の無補強既存建物は、引っ張り力16.3トンで完全に倒れましたが、今回は引っ張り力が26トンに達しても、建物に全く亀裂が生じませんでした。



【第二回の実験：耐震補強をした建物】

この実験結果から、今回の耐震補強方法（JACKETTING工法、補強金網にモルタル塗り）を用いることで既存建物の耐震強度が増すことが実証できました。今後実験データの解析を行い、「地震に対する既存建物の補強についての啓蒙ポスター」を作成する予定です。

●メンバー国との防災協力推進

防災政策ピアレビュー・パイロット事業の実施

ADRCは、ADRCメンバー国の能力向上及びメンバー国間での情報共有・関係強化を目指し、防災政策ピアレビューのパイロット事業を本年度より実施しています。本年度のピアレビューのテーマは防災教育及び意識啓発となっており、対象国はタイとブータンです。対象国からの本テーマに関するカントリーレポートの提出後、評価チームが現地に入り、聞き取り調査を行いました。評価チーム（ピアレビューアー）は、メンバー国から1名、日本からの専門家1名、ADRCから1名で構成されました。

タイ

11月17-18日はタイにおいて調査が行われ、日本赤十字社の白土直樹氏、アルメニアの国家地震防災研究所（NSSP）のアルバロ・アントニヤン氏、ADRC職員1名の計3名が参加しました。2日間の調査では、タイ内務省防災局（DDPM）を中心に、教育省、タイ災害警報センター、タイ赤十字社を訪問し、タイにおける主に国家及び民間レベルでの防災教育及び意識啓発活動について調査しました。



[タイでの調査の様子]

ブータン

11月25-26日には、ブータンにおいて調査を行い、ADRCの他に、防災科学技術研究所・地震防災フロンティア研究センター（EDM-NIED）の塩飽孝一氏、パキスタンの国家防災局（NDMA）アルシャド・ナワズ氏が参加しました。調査では、ブータンの内務文化省防災局を訪問の後、教育省、標準品質管理局、経済省地質鉱山局、UNDPを訪問し、ブータンでの取り組みについて情報収集、意見交換を行いました。



[ブータンでの調査の様子]

本事業は、双方向での情報共有、学習を目指し実施されており、対象国のみならず、評価チームに参加したメンバー国も学ぶことのできるプログラムを目指しています。今後は、評価チームが調査報告書をまとめ、対象国へ送付するとともに、ADRCメンバー国内で報告書を共有する予定です。また参加したメンバー国からの意見をまとめると同時に、パイロット事業での課題等を反映させながら、次年度以降のプログラムに反映させていきたいと思っています。

本事業にご協力くださいました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。